

令和5年度 一般入学者選抜の選抜・評価方法

学校番号 39

千葉県立行徳高等学校 全日制の課程 普通科

1 期待する生徒像

本校の教育方針を理解し、人物に優れ、基本的な学力を有し、校則やルール・マナー等を遵守して意欲的に学校生活を送る強い意志があり、次のア～ウのいずれかの要件をそなえるもの

ア 自らの進路実現に対する意識が高く、一人前の社会人になれるよう、自ら学び、考え、行動する意欲が高いこと

イ 部活動において優れた資質を有し、入学後も継続して当該部活動に熱心に取り組む強い意志があること

ウ 生徒会活動、学校行事、学級活動、ボランティア活動等に継続的に参画した経験を有し、入学後も積極的に参加する強い意志があること

2 選抜資料

(1) 学力検査	5教科の学力検査の得点
(2) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(3) 学校設定検査	学校が定めた次の検査の結果
ア 面接	受検者1名・評価者3名の個人面接 検査時間：1人5分程度
イ 自己表現	口頭による自己表現 実施形態：個人で発表 検査時間：3分
(4) 志願理由書	志願者の直筆による「志願の理由」及び「自己アピール」

3 評価項目及び評価基準

(1) 学力検査 [500点満点]

評価項目	評価基準
ア 5教科の得点合計	5教科（各教科100点満点）の合計500点満点で評価する。
イ 個々の教科の得点	0点の教科がある場合は、審議の対象とする。

(2) 調査書 [185点満点]

アの数値に、エについて加点（上限50点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値に $K=1$ を乗じた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3年間で30日以上欠席がある場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が一つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、 部活動の記録及び特記事項	学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動、その他の活動で特に積極的に取り組んだと認められる記述については、加点評価項目とする。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(3) 学校設定検査 [150点満点]

①面接 [100点満点]

3名の評価者が、次の4つの評価項目ごと、各評価基準に基づき、a（優れている）・b（標準的である）・c（問題がある）の3段階で評価する。

3名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ(a a a ~ c c c)で得点化する。

一つの評価項目で、cを2つ以上含む評価の組合せがある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 関心・意欲	本校教育への興味、関心を持っている。 学習や特別活動等、学校生活に対する意欲がある。
イ 目標・志望動機	高校生活に対する目標・意識がはっきりしている。 将来の希望や志望動機をしっかりと持っている。
ウ 態度・協調性	受け答えなどの態度が良好である。 友人を大切にし、協力して共同生活する気持ちを持っている。
エ 姿勢・身だしなみ	面接検査に適した姿勢で臨めている。 頭髪・服装などの身だしなみがきちんとしている。

②自己表現〔50点満点〕

- 3名の評価者が、次の3つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a(優れている)・b(標準的である)・c(問題がある)の3段階で評価する。
3名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ(a a a～c c c)で得点化する。
一つの評価項目で、cを2つ以上含む評価の組合せがある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 意欲・態度	発表に積極的・意欲的に取り組んでいる。 発表における態度・頭髪・服装が適切である。
イ テーマ・内容	発表内容が整理されており、まとまっている。 発表内容が自らの体験等に基づいており、説得力がある。
ウ スピーチの技能	発表における言葉遣いが適切である。 声の大きさや抑揚が適切であり、分かりやすく発表を行うことができる。

(4) 志願理由書

評価項目	評価基準
志願理由 及び自己アピール	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

4 選抜方法

(1) 選抜の方法

「学力検査の得点」、「調査書の得点」及び「学校設定検査(面接・自己表現)の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料を慎重に審議しながら、募集人員までを入学許可候補者とする。

〈総得点の満点の内訳〉

学力検査 の得点	調査書の得点		学校設定検査の得点		総得点
	評定(K=1)	加点	面接	自己表現	
500点	135点	50点	100点	50点	835点

(2) その他

- ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いはいしない。
イ 入学許可候補者とした者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による入学許可候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

5 その他

過年度卒業者については、学校設定検査終了後、別途個人面談を行う。

令和5年度 第2次募集 選抜・評価方法

学校番号 39

千葉県立行徳高等学校 全日制の課程 普通科

1 選抜資料

(1) 調査書	中学校の校長から送付された調査書
(2) 面接	受検者1名・評価者3名の個人面接 検査時間：1人10分程度
(3) 作文	字数：400字程度 検査時間：50分

2 評価項目及び評価基準

(1) 調査書〔185点満点〕

アの数値に、エについて加点（上限50点）したものを調査書の得点とする。

評価項目	評価基準
ア 教科の学習の記録	各教科の評定の全学年の合計値に $K=1$ を乗じた数値で評価する。 評定1または未評価の教科がある場合は、審議の対象とする。
イ 出欠の記録	3年間で30日以上欠席がある場合は、審議の対象とする。
ウ 行動の記録	○が一つもない場合は、審議の対象とする。
エ 特別活動の記録、 部活動の記録及び特記事項	学級活動、生徒会活動、学校行事、部活動、その他の活動で特に積極的に取り組んだと認められる記述については、加点評価項目とする。
オ 総合所見	特に優れた内容と認められる記載がある場合は、総合的に判定する際の参考とする。

(2) 面接 [100点満点]

3名の評価者が、次の4つの評価項目ごとに、各評価基準に基づき、a(優れている)・b(標準的である)・c(問題がある)の3段階で評価する。

3名の評価者による、評価項目ごとの評価の組合せ(a a a～c c c)で得点化する。
一つの評価項目で、cを2つ以上含む評価の組合せがある場合は、審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 関心・意欲	本校教育への興味、関心を持っている。 学習や特別活動等、学校生活に対する意欲がある。
イ 目標・志望動機	高校生活に対する目標・意識がはっきりしている。 将来の希望や志望動機をしっかりと持っている。
ウ 態度・協調性	受け答えなどの態度が良好である。 友人を大切にし、協力して共同生活する気持ちを持っている。
エ 姿勢・身だしなみ	面接検査に適した姿勢で臨めている。 頭髪・服装などの身だしなみがきちんとしている。

(3) 作文 [50点満点]

3名の評価者が、次の4つの評価項目の各評価基準に基づき、a(優れている)・b(標準的である)・c(問題がある)の3段階で評価する。3名の評価者による、評価a a a・a a bを評価A(50点)とし、c c c・c c bを評価C(5点)、それ以外を評価B(25点)とする。評価がCの者は審議の対象とする。

評価項目	評価基準
ア 漢字	正しい漢字をまじえて書いているか。
イ 字数	400字程度書いているか。
ウ 表現	適切な言葉遣いで書いているか。
エ 内容	与えられたテーマに対して内容・流れが適切であるか。

3 選抜方法

(1) 選抜の方法

「調査書の得点」、「面接検査の得点」及び「作文の得点」を全て合計した「総得点」により順位をつけ、選抜のための資料の評価等について慎重に審議しながら、第2次募集の募集人員までを入学許可候補者とする。

〈総得点の満点の内訳〉

調査書の得点		各高等学校において別に定める検査の得点		総得点
評定(K=1)	加点	面接	作文	
135点	50点	100点	50点	335点

(2) その他

ア 自己申告書が提出された場合には、選抜資料に加える。ただし、提出されたことにより、不利益な取扱いをしない。

イ 入学許可候補者とした者のうち、隣接県公立高等学校入学志願者取扱協定による入学許可候補者数が、細部協定書の示す制限比率を超えていないことを確認する。

4 その他

過年度卒業者については、学校設定検査終了後、別途個人面談を行う。